

(3) 家庭生徒生活に関する保護者の意識調査の結果、本校を比較対象とした。調査の結果、本校の保護者の意識は、他の養護学校と比べて、保護者の意識が低い傾向にある。また、本校の保護者は、自分の子供を見て太っていると思っている比率が高い。そのほか、本校の保護者は、自分の子供をおやつを食べさせている家庭が多い。また、好きな食べ物は、中学校の保護者になると子供に任せているという比率が高くなる。また、養護学校では、保護者が気を付けている傾向にある。また、本校では、耳垢に対する意識が低い。また、本校では、睡眠時間は、小学生より長い。また、本校では、家庭で、テレビを見ている比率は全体的に高い。視聴時間まで比較すると、本校の生徒は、他の養護学校の生徒と比べてもテレビを見ている時間が長い。また、本校では、家の手伝いをしたり音楽を聴いたりしている子が小中と比べて多い。音楽好きの生徒が多いことがうかがえる。さらに、家族のひとりで、労働の喜びや大切さを身につけさせたり、家族のひとりで、労働の喜びや大切さを身につけさせたりといった保護者の配慮が分かる。

※集計結果 資料参照

## 考察

- ・ 自分の子供の身長は知っているが、体重は知らない保護者が小学校を除いて多い。本校は、他県の養護学校と比較しても体重を知っている保護者が少ない。
- ・ 養護学校の保護者は、自分の子供を見て太っていると思っている比率が高い。そのほか、本校の保護者は、自分の子供をおやつを食べさせている家庭が多い。
- ・ また、好きな食べ物は、中学校の保護者になると子供に任せているという比率が高くなる。また、養護学校では、保護者が気を付けている傾向にある。
- ・ また、本校では、耳垢に対する意識が低い。
- ・ また、本校では、睡眠時間は、小学生より長い。
- ・ また、本校では、家庭で、テレビを見ている比率は全体的に高い。視聴時間まで比較すると、本校の生徒は、他の養護学校の生徒と比べてもテレビを見ている時間が長い。
- ・ また、本校では、家の手伝いをしたり音楽を聴いたりしている子が小中と比べて多い。音楽好きの生徒が多いことがうかがえる。さらに、家族のひとりで、労働の喜びや大切さを身につけさせたり、家族のひとりで、労働の喜びや大切さを身につけさせたりといった保護者の配慮が分かる。

## 5. 取り組みの概要

(1) 研究仮説 高等部の生徒は身体的な障害はかなり少ない。また、運動機能そのものも大きく劣っていないように感じられる。しかし、運動能力はかなり低いレベルにあり、また、動き一つ一つを見るとどこかぎこちなく、動きそのものが幼稚である。このように仮説を立てた。『本校高等部の生徒は、身体活動経験が乏しく多様な内容の濃い運動を経験不足な運動を経験を積み重ねていくことで、運動能力の成熟を促すことができれば、運動感覚経験を多く持たせると考えた。単に学校で運動経験を積み重ねるだけでなく、学校を離れた将来に必要となる運動能力の向上を図ることができると考えた。』

回数 (Times)	割合 (Percentage)	人数 (Number of People)
100	2.1%	9
115	20.9%	90
145	71.7%	309
160	3.7%	16
175	1.6%	7

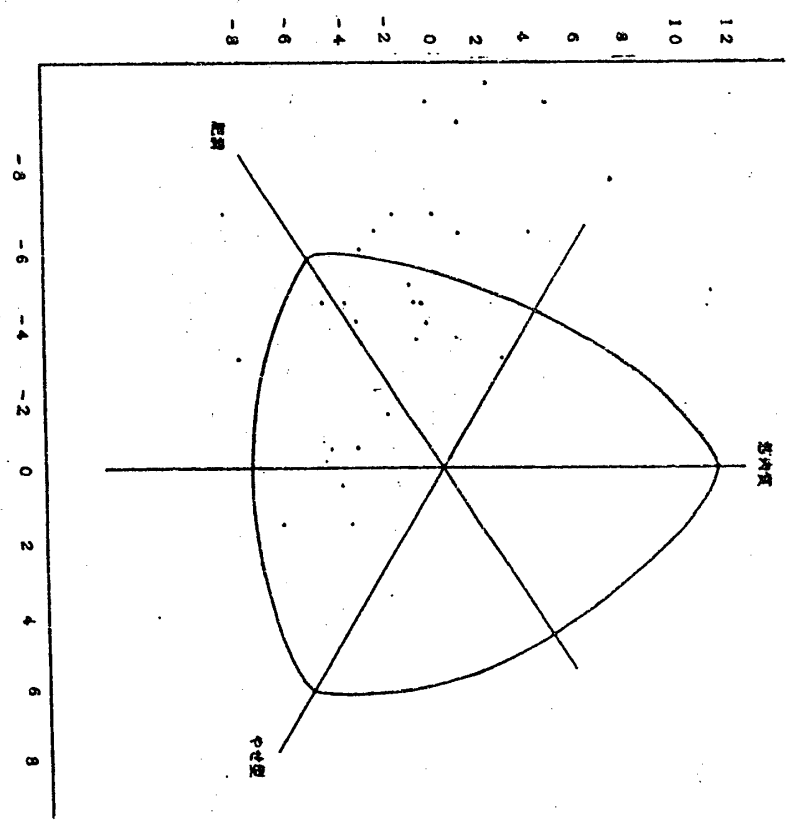
Figure 1: Bar chart showing the distribution of responses for 'How many times do you use the product?' (Figure 1). The x-axis shows the number of times (100, 115, 145, 160) and the y-axis shows the percentage. The data is as follows: 100 times: 2.1% (9 people); 115 times: 20.9% (90 people); 145 times: 71.7% (309 people); 160 times: 3.7% (16 people); 175 times: 1.6% (7 people).

Response Category	Number of Responses (n)	Percentage (%)
Too little (100)	13	2.5%
A little (115)	177	33.6%
Just right (145)	298	56.1%
A lot (160)	34	6.5%
Too much (175)	7	1.3%

Response Category	Count	Percentage
100-105	17	2.6%
105-110	118	18.4%
110-115	405	63.1%
115-120	60	9.3%
120-125	42	6.5%

Frequency	Percentage
1	3.6%
5	17.9%
13	48.4%
4	14.3%
5	17.9%

ヒースカーフ一分類法による三角形方式体形分類図



氏名	ローレル指数	体脂肪率 (%)
K : K	108	17.4
K : M	118	14.5
K : Y	131	20.0
H : Y	133	20.6
Y : E	133	20.6
K : I	188	48.6
Y : F	135	35.1
Y : S	172	33.3
Y : U	116	20.5
K : T	122	22.2
K : K	検査できず	検査できず
Y : T	120	22.0
M : I	104	13.9
K : T	151	22.9
K : K	127	12.3
T : Y	118	28.1
N : Y	115	25.3
M : I	121	21.4
S : K	160	35.9
I : M	131	24.7
I : M	125	19.2
T : O	161	27.6
Y : O	101	11.4
K : N	132	24.3
K : O	103	15.8
M : H	145	26.5
S : N	91	欠席
Y : K	180	44.4
I : N	172	38.3
H : M	146	35.7
E : M	126	21.1
Y : M	136	24.2
M : Y	146	25.0

### 実態・問題点

- ・持久力や根気強さに欠ける。
- ・自ら進んで遊んだり運動したりすることが少ない。
- ・運動諸機能の測定値が低いレベルにある。
- ・肥満傾向のものが多い。



### 原因として考えられること

- ・体力がない。
- ・運動経験が不足している。
- ・運動に取り組みやすい環境でない。
- ・障害や発達の遅れによる。
- ・運動の楽しさを知らない。

多様かつ内容の濃い運動不足から来る運動能力の成熟の遅れがある。



### 手だて

- ・運動経験の積み重ねによる運動の習慣化。
- ・運動の機会増加による運動能力の発達の促進。
- ・生徒の自分の身体についての意識を高める。
- ・運動に取り組みやすい環境をつくる。
- ・運動の楽しさを味わわせる。

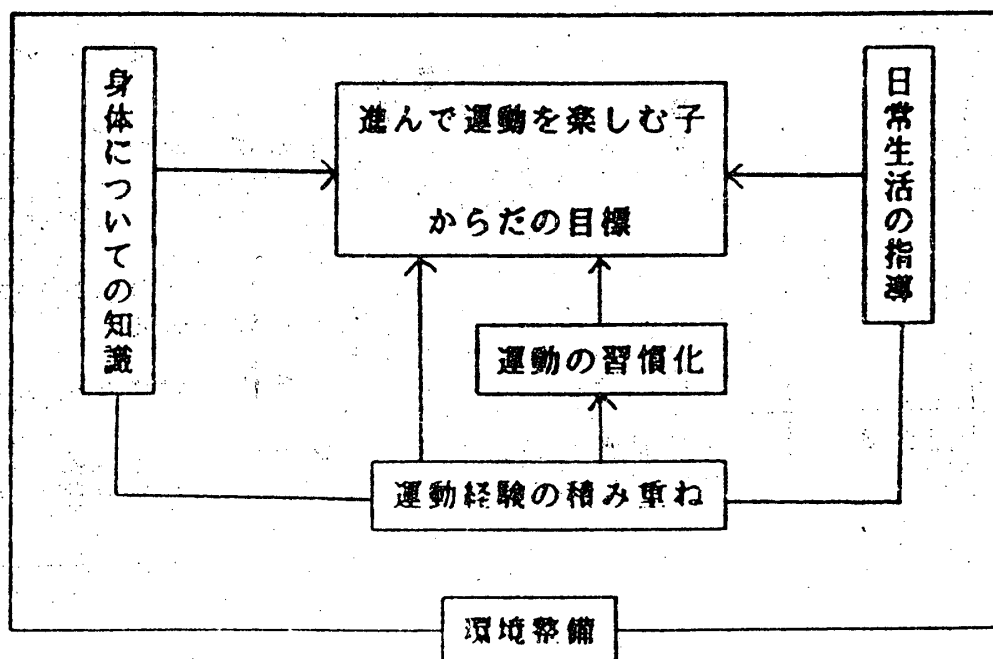


### めざす像

すすんで運動を楽しむ子

## (2) 実践の構想

(1) の仮説をもとにしてテーマへのせまり方を次のように考えた。



### (3) からだの目標

日常生活の中で生徒の一人ひとりが、今もったも獲得しなければならぬと考えた中、研究テーマに個人目標と設定した。今年度は、この個人目標に加え、研究テーマにも取り組んでいくこととした。そして、からだの目標、個人目標と個人目標へせまり、個人目標に近づくことがからだの目標に近づくことになると考えて取り組んだ。

### (4) 指導場面の設定とねらい

#### ア) 運動経験の積み重ね

- ・保健体育科の学習
  - ・学校・学部行事
  - ・部活動
  - ・休憩時間の活用
  - ・朝の活動（朝の運動）
- （バスケットボール部、グラウンドゴルフ部、ジョギング部）

#### イ) 運動の習慣化

- ・休憩時間の活用
- ・家庭との連携

#### ウ) 身体についての知識

- ・生活一般（家庭科 学級指導 理科 等）

#### エ) 日常生活の指導

- ・給食指導
- ・その他

また、環境整備もテーマへせまる大切な条件であると捉え、よりよい環境づくりを目指すことにした。

#### 各学習場面におけるねらい

	学習場面	ね ら い
運動経験の積み重ね	保健体育科	生徒の運動経験を拡大する場・積み重ねる場として研究の中心として位置付ける。 ・運動そのものの持つ楽しさを味わわせる。 ・生涯スポーツにつながる運動種目の経験をさせる。 ・瞬発力や持久力など身体諸能力の向上を図る。 ・集中力やねばり強さなどの精神的な面の育成を図る。
	朝の活動	保健体育科の授業の拡充ならびに運動経験の拡充や毎日運動を継続していく力の育成を図る。 ・いろいろな運動を経験させる。 ・毎日、運動を継続する力の育成と習慣化を図る。
	部活動	同じ運動を続けていく実践力の育成を図る。 ・運動技能の向上 ・筋力の向上 ・種目に対する自信の獲得

運動の習慣化	学校 学部行事	<p>日常、学校では出来ない運動の経験をさせたり、今までの実践の成果を観察したりする場として位置付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足</li> <li>・キャンプ</li> <li>・運動会</li> <li>・校外宿泊学習等</li> </ul>
	休憩時間	<p>実際に生徒たちが運動を楽しむ場であると考え、また、実践を自己評価させる場にしようと考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで運動に参加する力の育成を図る。</li> <li>・仲間と運動を組み立てる力の育成を図る。</li> </ul>
	家庭との 連携	<p>運動の習慣化を図る中心の場として位置付けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に生徒の実態を知ってもらう。</li> <li>・生徒と保護者とが共に運動していくよう働きかける。</li> <li>・保護者の運動に対する意識の向上を図る。</li> </ul>
身体についての知識	生活一般科 (家庭指導 学級理科)	<p>自分の身体や運動するうえで必要な知識や実践する力を身に付けさせる場として位置付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事・栄養についての知識</li> <li>・自分の身体についての知識</li> <li>・日常生活への生かし方</li> <li>・その他</li> </ul>
	給食指導	<p>生活一般と関連してより具体的な指導の場として位置付けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好ましい食事の仕方・量などについて</li> <li>・偏食の矯正</li> </ul>
日常生活の指導	その他	<p>日常生活において必要に応じた指導を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の体重測定の実施</li> <li>・月例身体測定の実施と結果の利用</li> <li>・歯みがき指導</li> </ul>